

平成26年度 学校関係者評価(結果)

学校番号	24	学校法人静岡理科大学 静岡北高等学校	記載者	廣住雅人
------	----	--------------------	-----	------

学校教育目標	1. 常に誠実で、清らかな心をもって物事に真剣に取り組むことができる人材を育成する。2. 現状に甘んじることなく、日々新しいものを創り出そうとする気持ちを持ち、何事にも積極的に挑戦していく人材を育成する。3. 技術の進歩が著しい今日、大学院・大学・専門学校という高等教育機関の場において、高度な科学技術を習得できるように、基本的な学習を身に付ける。	【総合評価】 これまでの積み上げが、新体制(新校長・新教頭)で教育成果として表れた。少子化の中で強い、誠実な学校として今後も存続していくことに期待し、学校関係者(三団体)も教育活動には積極的に協力していきたい。		
教育方針	将来、科学技術に夢と希望を持ち、創造性豊かな人材育成の基礎をつくる。			
今年度の重点目標		評価	学校側の成果と課題	学校関係者からの意見
1 学校経営方針を実現するための教育活動の展開及び教育環境を構築する 総務部、教務部、指導部、事務部のいずれの分掌も、校訓の追及を教職員自らが行うという観点から職務目標、業務 課題目標を設定する。		4	学校経営方針を実現するための教育活動の展開及び教育環境を構築し、総務部、教務部、指導部、事務部のいずれの分掌も、校訓の追及を教職員自らが行うという観点から職務目標、業務 課題目標を設定することができた。	これまでの伝統を継承しつつ、新たな飛躍を目標に掲げ、新しいことに積極的に取り組んでいく北高の逞しさが、今後も存続していくことを期待します。
2 目標生徒数を獲得する 効果的な広報活動、募集活動を行い、目標生徒数を獲得する。 (1) 教育システムと教育内容をアピールする広報活動を展開する。 (2) 他校との差別化を図れる広報媒体を作成する。 (3) 来るべき激減期への対応策を検討する。		4	目標生徒数を獲得するという課題に沿い、効果的な広報活動、募集活動を行い、目標生徒数を獲得した。(1) 教育システムと教育内容をアピールする広報活動を展開した。(2) 他校との差別化を図れる広報媒体を作成した。(3) 来るべき激減期への対応策は継続課題と	十分とも言える入学生が獲得できたことは、北高の教育が他校との違いを数字で表したことと言える。
3 進路実績の向上を図る 生徒の希望と適性にあった満足のいく決定をし、進路実現を図る。 (1) 北高、北中独自の進路指導プログラムを展開する。 (2) 教員の指導力(教科・生活)の強化を図る (3) 国立大学、難関私立大学への進学を可能にする進路指導マネジメントを確立する。		4	生徒の希望と適性にあった満足のいく決定をし、進路実現を図ることに支援するために、北中・北高独自の教育プログラムの展開、教員の指導力(教科・生活)の強化、国立大学、難関私立大学への進学を可能にする進路指導マネジメントを確立することが積極的に行われ	東京大学文科1類、旧帝大、難関私大合格をはじめに、進路実績では毎年話題を提供している北高には、今後のますますの伸長を期待する。
4 法人内大学、法人内・間専門学校との連携を図る 法人内大学、専門学校との教育プログラムを再編し、高・大一貫コース、高・専一貫コース生を核として、志願者の増加を図る。 (1) 一貫教育の魅力あるプログラムを再構築する。 (2) 大学、専門学校の認知度や魅力を高める広報活動を展開する。 (3) 大学、専門学校の有益な情報をリアルタイムで広報する。		4	法人内大学、法人内・間専門学校との連携を図りながら、法人内大学、専門学校との教育プログラムを再編し、高・大一貫コース、高・専一貫コース生を核として、志願者の増加を図った。併せて、一貫教育の魅力あるプログラムを再構築、大学、専門学校の認知度や魅力を高める広報活動、大学、専門学校の有益な情報をリアルタイムで広報することを積極的に行うことができた。	生徒の目標設定が難しく遅い中において、早い時期から専門的なことに取り組めるプログラムで、他校にはないプログラムとして、北高独自のものになっている。
5 学校評価を高める教育プログラムを展開する (1) 中高一貫教育を確立する。 (2) 理数教育を推進する。 (3) SSH事業を推進する。 (4) 国際化教育を推進する。 国際理解教育の推進を通して、生徒の国際性の涵養と進路意識の啓発、国際理解教育の充実を図り、国際理解や国際交流に貢献できるグローバル人材を育成する。 (5) 独自のキャリア教育を推進する。		4	学校評価を高める教育プログラムを展開するために、中高一貫教育確立、理数教育推進、SSH事業推進、国際化教育推進、独自のキャリア教育推進等、多岐にわたる教育プログラムに取り組むことができた。また、国際理解教育推進を通して、生徒の国際性の涵養と進路意識の啓発、国際理解教育の充実を図り、国際理解や国際交流に貢献できるグローバル人材を育成するには、今後も積極的に取り組んでいく。	中等教育から高等教育への接続に向けて、基礎・基本的なことから専門的なことまでを、生徒個々の適性に合い身につけさせている。

領域	ねらい	評価項目	達成目標	昨年度の実績	評価	学校側の成果と課題	学校関係者からの意見
学校経営	設定された教育目標にそい学校経営計画書が作成され、それに基づいた教育活動を展開する。	教育目標、学校経営計画書、教育活動	個々の教員が多忙にすぎ一つ一つが雑になっている。一方で業務の比重に大きな偏りがあるように思う。評価に対する適正なフィードバックを検討し、教職員のモチベーションアップに繋げる。	年度当初には学校経営計画書が作成され、それに基づき教員個々の職務・業務目標が設定。年度途中には進捗確認、年度末には検証・評価が行われ、事業報告書にまとめられた。	4	法人、学校としての教育目標が掲げられ、前年度の反省棟を含みながら、学校経営計画書が作成され、教員各人への落とし込みが図られた。	教育目標、学校経営計画書、教育活動等については、保護者の集まる機会が簡単に知られているが、公開的な広報を望みます。
教育課程・学習指導	適切な教育課程が編成され、学習目標・計画が明示され、日常の学習活動を効果的に展開する。	教育課程、学習目標・計画・指導、課題実施、学習状況把握	新課程における大学入試問題の研究と、指導の実践。生徒の勉強習慣をつけていくことを考えて、家庭学習の指示を明確にする。	新学習指導要領に基づいた、各教科の指導推進を図れた。家庭学習(探究型学習)の定着を図るためには、家庭学習の記録を一部の学科・コースでは実施された。2年目となるコース制の変更(体育コース・普通コースの廃止、進学コースの改名)に伴う、生徒の進路(コース)選択に対して適切な助言指導は行えた。	4	日常業務的には、評価項目を概ね達成した。新学習指導要領実施に向け、改訂の狙いをふまえ、本校の現状と将来像を鑑み教育課程を編成した。	適切な教育課程が編成され、学習目標・計画が明示され、日常の学習活動を効果的に、全学科に展開されているかが判定できにくい。
生徒指導	健全な高校生活を送れるような生徒への啓発活動を行い、個々の生徒へのサポート体制を家庭との協力のもと確立し、生徒理解に努める。また自立した生徒の育成のための支援をする。	生徒への啓発活動、家庭との連携、事前・事後指導体制、人間教育、生徒理解、基本的な生活習慣の確立、自立した生徒の諸活動	基本的な生活習慣の確立と挨拶のできる明るい学校にする。	特別な生徒指導件数は減らすことはできなかったが、その他の生徒においては、健全な生活習慣確立や高校生としての自覚の深まりが、50周年記念行事や各学校行事を通じて垣間見ることができた。	4	問題行動が0になった訳ではないが、年々発生件数は減少している。理由としては、入学生と心の成長と、それを促す教員の指導力がある。問題発生時の初動と、その後の対応が効力を発揮している。	健全な高校生活をおくられるように生徒への声掛けを行い、個々の生徒へのサポート体制を持っている。
進路指導	学校の方針に基づいた進路指導を展開し、個々の生徒の進路希望に即した緻密な指導を実行する。また、本校独自のキュリア教育を実施する。	学校の方針に基づく進路指導、生徒への情報提供、個々の生徒への対応、就職指導、進学指導、キャリアパートナーシップ事業	大学進学に関し、悔いのない選択をおこなわせるため、広い視野を持ち大学選びができるよう生徒および保護者へ働きかける。	生徒の進路に合わせ、キャリアパートナーシップ先を選び、積極的に参加させることができた。就職希望者に対しても、高校2年生の段階で就職試験用の問題集を用意させ、対策をとることができた。	4	上級学校への進学から就職に至るまで、そして、平日の放課後の講座や隔週土曜日の講座(サタデースクール)等、生徒の「夢の実現に向け頑張るが好き」を叶えるために、教員一丸となつての指導が行われた。	上級学校への進学から就職に至るまで、そして、平日の放課後の講座や隔週土曜日の講座(サタデースクール)、個別指導等、教員一丸となつての指導が行われている。
安全管理	日常から防災に対する意識を高め、予期せぬ災害時に適切な対応ができる体制作りをすることが必要。また、学校としても校内の危険箇所の定期的な点検、スクールバスの安全運行といった意識を常に持ち合わせる必要がある。	防災訓練(校内・校外)、災害時の対応、安全な教育環境、安全なスクールバスの運行	一つ一つの訓練やマニュアルが浸透するよう、折々にその重要性を説明し、意識を高める。防災教育では自己判断の育成を養いたい。	防災訓練では大学教授による講義をいただき知識の定着を図った。スクールバスも事故なく1年間が終了できた。AEDの点検を定期的に行い、新しいガイドラインに沿ったAEDを購入していただくことになった。	4	防災訓練は、時間的制約もあり、避難経路の確認と、津波被害を想定して高所への移動練習を想定して高所への移動を行った。スクールバスの運転手安全運転講習も実施され、安全運手に対する意識は常に高いものがある。	防災訓練は、避難経路の確認と津波被害を想定して高所への移動練習を実施したとされているが、防災教育への発展を望む。
保健管理	生徒の健康管理のための検診計画を作成・実行し、疾病者に対する治療勧告を確実に行う。また部活動の活性化を図り、ボランティア活動に積極的に取り組む。	検診計画、健康管理指導、運動部・文化部の活性化、ボランティア活動への参加	病理的理由による遅刻・欠席・保健室利用等が積み重ならないよう、日ごろから意識させるとともに、人間関係の問題で悩む生徒には早期の個別対応とカウンセリングの有効利用をする。	日常的な疾病や怪我も含め、様々な問題を抱える生徒も年々増加している傾向の中で、減らすことは難しいが、その都度誠意ある的確な対応が求められる今日、保健体育課として保健室と連携し、事故・問題発生に対して真剣に取り組んできた。	4	生徒・教職員の健康診断受診率を高めることができた。各種検診では、これまでの実施方法に改良を加え、全体検診時間の短縮を図れた。安全衛生委員会の機能を高めることが課題である。	生徒の健康管理と合わせて、生徒の指導に当たる教職員の健康管理については、どのように対応されているか。
特色ある教育	法人のスケールメリットをいかし、本校独自の高・大・高・専一貫教育を推進し学園全体の活性化を図る。また、課題研究を推進し他校との差別化を図りつつ、進路実績につなげる。	高・大・専一貫教育、高・専一貫教育、外部機関との連携教育、SSH事業への取り組み、課題研究	入学試験なしで大学に進めるという安易な気持ちの生徒、レポートの丸写しといった「甘い気持ち」で大学の講義に向かう生徒への一層の指導の強化が求められる。	高・大・専一貫コース2年生には、出張講義・夏季実験講座の事前・事後指導を行い、生徒の最先端の研究に対する関心を高めた。高専一貫教育は中身はうまくいっていると思う。生徒保護者の意識も高い。	4	静岡理工科大学進学者・法人内専門学校進学者の安定した数の送り込みができた。開催12回を重ねた課題研究発表会も対象者が増え、運営方法にも改善が加えられた。	静岡理工科大学進学者、法人内専門学校進学者を毎年達成し、法人内の連携が成果となっている。

領域	ねらい	評価項目	達成目標	昨年度の実績		学校側の成果と課題	学校関係者からの意見
組織運営	組織的な校務分掌体制を整え、規律をもって教職員が服務を全うする。また計画的な予算編成を中長期的な観点を考えてい、日常の経理業務を正しく管理する。加えて個人情報に関する管理、公文書管理を適切に行なう。さらに保護者・地域と連携した活動を展開する。	効果的な学校運営体制の確立、組織的な校務分掌体制、規律正しい勤務体制、連携した危機管理体制、計画的な予算執行、中長期計画の策定及び遂行、経理業務の管理、個人情報保護、公文書の管理、情報収集体制の確立等、効果的な活用がされているかチェック機能の確認をする。	現状の情報セキュリティ、危機管理体制の性能アップに向けての検証を行う。公文書の管理、情報収集体制の確立等、効果的な活用がされているかチェック機能の確認をする。	効果的な学校運営体制、組織的な校務分掌体制、規律正しい勤務体制、連携した危機管理体制、計画的な予算執行、中長期計画の策定及び遂行、経理業務の管理、個人情報保護、公文書の管理、情報収集体制の確立等、チェック項目の多い中大きなミスはなく行われたが、組織的な動きとしては一考が必要である。	4	委員会やプロジェクト等で今日的な本校の進むべき道が検討され発表された。 ウェブフロー・システム(文書の電子化、電子印)の導入により、情報と文書の管理が適切に行われた。	教員集団だけの学校組織はどこまで通用するのか。生徒を指導するための組織であろうと、保護者、地域住民との連携を図った組織の再構築が必要と感じる。
研修	学校の教育内容が問われる時代、教職員の資質向上が常に求められるので、計画的かつ時代が求める教師となっていくための研修を的確に実施し、各教職員が個々のスキルを上げていく体制作りをする。また、研修内容を共有化していくためのシステム作りをしていく。	計画的な研修体制の確立、郊外研修への参加、研修報告会の実施	当然のことながら教職員の資質向上に関する研修は継続されるべきである。教科指導に関する研修はもちろんのこと、生徒指導、保護者への対応のスキルをあげるための研修も行う必要がある。また、研修が実践に活かされるような振り返る機会を設ける必要もある。	教科指導力と生徒指導力を向上させるという目的をしっかりと持って教員研修が展開された。研修報告会、フィードバック研修に関しても、職員会議や各教科部会等を通し確実にこなった。生徒の質や目標とする進路、更に保護者の価値観が多様化する中で教員としての高いスキルが求められる。	4	予備校等における教育研修セミナー継続的な参加により、指導力向上に繋がっている。 教員が単独で参加した研修については、職員会議を利用して報告し情報の共有化を図っている。	予備校等における教育研修セミナー継続的な参加により、指導力向上に繋がっている。
保護者、地域住民との連携	学校を支えてくれる保護者の会や外部団体との連携を強化し、学校運営を側面から支援してくれる組織の意見を受け入れながら、更なる本校の発展を目指す。	保護者の会との情報交換、学校運営に対する外部団体の参画、外部要望の学校運営に対する反映、保護者に対する協力依頼	保護者の会との活動は、現状維持で安定的な運営を進めていく。外部団体や地域との連携は、本校の行事、生徒活動、施設等を活用した形で推進していく。	保護者の会との連携は平穏な状況に戻った。保護者の会主催の環境整備活動や広報誌も滞りなく終えることができた。	4	保護者の会が、環境整備や広報誌など、自ら積極的に活動をすすめることで活性化してきた。学校の教育を理解し、教育活動に協力的な保護者の会に成長しつつある。	保護者の会が、講演会や広報誌など、自ら積極的に活動を進めることで活性化してきた。学校の教育を理解し、教育活動に協力的な保護者の会に成長しつつある。
施設設備	施設設備の美化と定期的な点検を確実に実行し安全管理に努め、生徒たちにしっかりと学習環境を整備する。	効果的な施設利用と環境美化、施設・設備の点検、学習環境の整備、図書館の活用	設備を大切に利用すること、本校が予算をひとつひとつ大切に使うことなど、日常的に理解を求める。美化委員会の活動を強化したい。	普段の清掃活動や移動教室の際のエアコンの電源管理の注意に併せ、その積み重ねが組織運営において大きな効果を生むという意識を持たせるよう指導した。	4	生徒が求める書籍(大学進学、進路選択、SSH研究関連、等)は、年々充実してきた。施設・設備の定期点検も実施された。	安心・安全な施設・設備の維持を努めている。
				総合評価	4		